



## 2021 RACE REPORT

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook

第4戦 TKU スーパー耐久レース in オートポリス

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2021年7月31日(土) ~ 8月1日(日)

オートポリス (大分県日田市)

### ■ ■ ■ ■ 残り2周で抜かれ、悔しい2位チェッカー ■ ■ ■ ■

予選日(土曜日)の天候は晴れ。Gr.2の予選は13時35分から行われ、Aドライバー、服部選手が予選開始の合図と同時にコースイン。2分03秒278のトップタイムをマークしますが、終盤にアタックを行った#39 RC350が服部選手のタイムを上回り、服部選手は2位。Bドライバーの予選は14時40分から行われ、吉田選手は2分02秒339のトップタイムをマーク。A、B両ドライバーの合算タイムにより、#39 RC350に次ぐ予選2位となりました。Cドライバー、川合選手は雨を想定したセッティングで走行し、本番に向けたシミュレーションを行いました。

決勝(日曜日)朝の天候は予報通り雨。1時間のスタート進行の後、11時に決勝(5時間レース)がスタート。雨は降り続いており、クラウンRSには雨寄りのセッティングが施されています。スタートドライバーの吉田選手は2位をキープして1周目を終了。#39 RC350の背後にピタリとつけています。ところが3周目、霧が一気に濃くなりセーフティカー(SC)導入。8周目にレースは再開されますが、再び霧が濃くなり、翌週に再度SCが導入されます。天候の回復が見込めないため、12周目に赤旗が提示され、レースは一時中断に。全車ホームストレートに停止し、天候の回復を待ちます。

約1時間の中断を経て、12時45分にSC先導でレース再開。周回数は13周目です。予報に反して雨、霧ともに上がり、路面が乾くことは間違いない状況。吉田選手はトップの#39 RC350に続いて、13周目の終わりにピットイン。満タン給油とドライタイヤへの交換を行い、吉田選手のままピットアウトします。14周目の終わりにSCがピットに入り、レースはリスタート。吉田選手は#39 RC350に続いて4位を走行します。上位のピットインにより、17周目に2位に上がり、#39 RC350との一騎打ちに。ペースに優る吉田選手は#39 RC350にプレッシャーをかけ、25周目に他クラスと交錯した隙を利用して、#39 RC350をパス。トップに立ちます。吉田選手は#39 RC350との差を広げながら、1時間半のスティントを快走。#39 RC350に10秒ほどの差をつけ、54周目の終わりにピットに入ります。川合選手に交替し、満タン給油とタイヤ交換を行いピットアウト。S耐初参加の富田(深谷支店)も固定メカニックと同等のスピードでタイヤ交換を終えています。

コースに復帰した川合選手の順位は4位。トップの#39 RC350、2位の#62 RC350は2回目のピットインを行っていません。59周目前後に上位3台がピットに入り、川合選手はトップに浮上。#39 RC350との差を引き離しにかかります。川合選手のペースは良好で、61周目の終わりに約27秒あった両車の間隔が、82周目の終わりには40秒以上に拡大。しかし、タイヤの摩耗が進行している上に、給油のためのピットインを行う必要があるため、ピットは一気に緊迫します。チームが出した結論は、給油のみの短いピットインを行い、逃げ切るという作戦。序盤の赤旗により、ドライバー交代の義務は解除されています。残り20分をきった94周目の終わりに川合選手がピットイン。給油のみを行い、狙い通り#39 RC350の前でコースに復帰することに成功しますが、2台の差は1秒以下。ペースは#39 RC350の方が速く、川合選手はディフェンスに終始します。トップをキープしながら力走を続ける川合選手ですが、チェッカーまであと2周となった103周目の1コーナーでインを奪われ、万事休す。#39 RC350と約1.5秒差の2位でチェッカーを受けました。

決勝結果(ST-3クラス)  
#52 埼玉トヨペット Green Brave クラウン RS  
(服部尚貴/吉田広樹/川合孝汰)  
決勝: 2位(104周、5時間03分43秒653)  
予選: 2位(合算タイム4分05秒617)



## DRIVERS VOICE

## 【服部尚貴選手】

赤旗や中断があり、いろいろ天候に振り回されたレースでした。赤旗が出たことによってドライバー交代の義務がなくなり、それをうまく利用して最後のピットは給油のみのスプラッシュを行いました。本来なら自分が乗る場面ですが、短い時間でコースに戻すために、同じドライバーで給油だけ。すべて作戦通り、チームも頑張ってくれてうまくいっていたのですが、勝ったチームのピットがうちより1回少ない。うちの作戦は完璧だったと思いますが、燃費の部分で負けましたね。タイヤ交換も含めてドライバーもメカもパーフェクト、エンジニアのレースの組み立て方もパーフェクトだと思います。ラスト2周で抜かれてしまったので、正直すごく悔しいのですが、これもレースです。

## 【吉田広樹選手】

自分たちの方が少し速かったので、ちょっとずつちょっとずつ追いついていきました。仕掛けるチャンスを待っていたのですが、他のクルマをいいタイミングで使えて、前に出られました。そこは良かったと思います。ピットインのタイミングでは、初参加の富田さんが固定メカニックの長瀬さんにひけをとらないぐらいのいいペースでタイヤを交換してくれたので、頼もしかったです。39号車とは燃費の差があり、チームがうまく作戦やタイミングを考えてくれて、自分も孝汰もそれでうまく走っていたのですが、最後に力負けした感じです。最後の2周、耐えたかったという気持ちがありますが、乗っている本人が一番悔しいでしょうし、自分も振り返ればやれることはもっとあったと思うので、次に活かせればと思っています。

## 【川合孝汰選手】

決勝ではピットに入って、作戦通り給油だけしてコースに戻りました。チームのみなさんが素晴らしい動きをしてくれて、39号車の前に出られたのですが、そこからピットインで止まった時の熱なのか、クルマのフィーリングが全然変わってしまい、コース上にとどまっているのが精いっぱいという状態でした。あと2周でしたが、あれを耐えられるようにならないとダメです。

## MECHANIC VOICE

## 【久喜支店・長島直生】

タイヤ管理を担当しました。去年、86/BRZ Raceに参加したので、合計3回ほど、レースに参加しています。86より速度域が高く、管理するタイヤの数も多いので大変です。天気や空気圧、温度によって区別の仕方が変わってくる上に、決勝では雨用とドライ用のタイヤを用意する必要があったので大変でした。決められた時間にタイヤが準備できていないとレースに直結するので、時間管理の仕方は店舗の仕事でも活かします

## ST-3 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	エアバスター Winmax RC350 TWS(レクサス RC350)	104周
2位	埼玉ヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	104周
3位	QUEEN EYES 34Z(日産 フェアレディZ)	103周
4位	エアバスター 55Garage RC350 TWS(レクサス RC350)	102周
5位	岡部自動車レカロZ ルーニススポーツ(日産 フェアレディZ)	102周
	リタイア:HELM MOTORSPORTS RC350(レクサス RC350)	73周
	出走 6台	

## ST-3 クラスポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント (手動計算)
1位	39	TRACY SPORTS with DELTA	87.5
2位	244	Max Racing	81
3位	52	埼玉ヨペット Green Brave	75.5
4位	62	HELM MOTORSPORTS	71
5位	41	TRACY SPORTS with DELTA	65
6位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	62

## PARTNERS



赤城車体工業株式会社



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



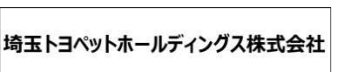
株式会社カーグラス・J P



株式会社クールホールディングス



埼玉スリーボンド株式会社



埼玉ヨペットホールディングス株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社テレビ埼玉



株式会社デンソーソリューション

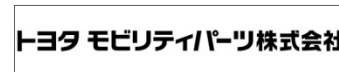


株式会社トイファクトリー

インターナショナル



株式会社ドーム



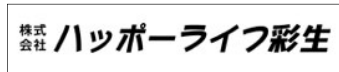
トヨタモビリティパーツ株式会社



トヨタホーム東京株式会社



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社